

2024年5月26日（三位一体主日・聖霊降臨後第1主日、B年）

牧師メッセージ

「三位一体の神によって届けられる愛」

（ヨハネによる福音書 3:1-17）

司祭ヨセフ太田信三

ニコデモはファリサイ派に属し、最高法院の議員であり律法の教師でした。しかも、彼は聖書に出てくるファリサイ派のイメージとは随分異なり、謙虚な人で、イエスに聴けば真理に至ることができると感じていました。しかし、彼は堂々とイエスのもとを尋ねることはできず、夜になってからイエスを訪ねました。ファリサイ派の仲間たちに見つかって何か言われることを恐れたということもあるでしょう。また、律法の教師なのにイエスに教えを求めたことが噂になることを避けたかったのかもしれない。いずれにせよ、ニコデモはイエスに惹かれる感性を持ちながらも、この世的な観念、価値観にとらわれている人であったことが分かります。ニコデモの人間性は、イエスとの復活についてのやり取りにおいて、より鮮明に暴かれます。イエスが導こうとするところ、本質に至るまでに、ニコデモは幾重にも重なる常識や知識といったものにぶつかってしまい、辿り着くことができないのです。そして残念ながらイエスが語る復活のこと、そしてそこに込められた神の心に至ることができませんでした。人間の理性や知識はとても大切なものです。しかし時にそれが真理への道を閉ざすものとなってしまうことがあります。

では、わたしたちはどうすれば常識や知識を超えて信仰に至ることができるのでしょうか。ちっとも説明にならないような言い回しをしていますが、それこそイエスが言うように、水と霊によって新しい命をいただかなければならないのです。それは神の愛に至る道を閉ざすあらゆるものを、神によって洗っていただくということです。水は霊の象徴です。霊の水で洗われるとき、わたしたちは霊の命をいただき、イエスの十字架上の姿に神の愛を見る信仰が与えられます。そのためにこそ、神は聖霊を降し、あの弟子たちを変えてしまうほどの力をこの世界に送ったのです。その聖霊はわたしたちの今生きるこの現実にも吹き荒れているものであり、わたしたち一人ひとりに今この時にも伴っているものです。つまりここに吹き荒れている、わたしたちに伴っている聖霊、神の力を感じる場所に、常識も知識も超えた信仰への道、神の愛に触れた命への道が開かれるのです。わたしたちは今も風のように吹いている霊の語りかけに耳を澄まし、霊の導きに委ねないなら、かつてのニコデモと同じように、いくら愛や真理を求めても、それには至ることはできないのです。

自分の思いに従って肩で風を切って歩く生き方から、霊によって洗われ、霊の風に身を委ねる生き方へと変えられるなら、神にある真理、神の思い、神の愛を知る事ができます。神は旧約の時代から注ぎ続けてくださった愛を、主イエスの十字架により、そして聖霊によってわたしたちにご自身の愛を届けてくださっています。今日の三位一体主日にあって、三位一体なる神が人知を超え、神にしかできない方法でわたしたちに関わってくださっていることをあらためて感じたいと願います。